

術中神経モニタリングに使用する滅菌物のシステムの安全管理

◎渡邊 一儀¹⁾、菅原 未稀¹⁾、瀧沢 義教¹⁾、内山 健二¹⁾、中島 あつ子¹⁾、春木 宏介¹⁾
獨協医科大学埼玉医療センター¹⁾

【はじめに】術中神経モニタリングでは、術野で使用する電極等の滅菌物が複数種類あり、使用頻度も様々である。そのため在庫数や滅菌期限について、適切に管理することが安全管理上必須となる。今回、滅菌物を管理するシステムの構築および運用を検討したので報告する。

【滅菌物の種類】10種類、合計在庫量約40個である。

【準備したもの】ラベル印刷はTEPRA PRO SR-R980 (KINGJIM)。クラウドWeb管理システムに使用したソフトウェアはスプレッドシート (Google) である。

【運用】①滅菌物を滅菌に出す当日にラベルを作成する。ラベルには滅菌物の識別番号と滅菌日を入力し、それをバーコードとして印字する。②ガス滅菌用パウチバッグの外側に作成したラベルを貼付し、滅菌をする。③ガス滅菌が終了した滅菌物を管理システムにて、『入庫処理』をすることで在庫がプラスカウントされる。④『在庫状況確認』にて、各種滅菌物ごとの在庫および滅菌期限までの日数を確認することができる。⑤滅菌物を使用する当日に『出庫処理』をすることで在庫がマイナスカウン

トされる。この際、滅菌期限が切れていた場合は、アラートメッセージが表示される。また『入庫処理』および『出庫処理』はバーコード入力のみによって行われる。

【効果とまとめ】システム導入前は、滅菌物を使用する際に、小さな文字で記載されている滅菌期限を目視で確認してから使用していた。その際に、滅菌期限が迫っていることに気づくこともしばしば発生していた。システム導入後は、在庫および滅菌期限を一覧で事前に確認ができるようになった。万が一、滅菌期限切れ状況を見落としした場合でも、滅菌物個々の出庫処理時に、システムのチェックにより発見できるようになった。また管理システムは、各手術室の現場にてPC端末やタブレット端末などから、アクセスすることができる。これにより固定の場所に縛られず、リアルタイムで情報更新ができる。以上のことにより滅菌物を系統的に管理することは有用性が高い。タスク・シフト/シェアにて活動の場を広げるにあたり、このような確実性を担保することも同時に進める必要性があると考えられる。連絡先 048-965-1111